

12/
26

松江歴史館 「連続テレビ小説『ばけばけ』の世界と 小泉セツと八雲の時代」



▲松江の寒い冬を過ごすための暖房具「夜着」と
「湯たんぽ」



▲ドラマでヘブン（演：トミー・バストウ）と錦織（演：
吉沢亮）が着用した衣装

松江歴史館で、企画展「連続テレビ小説『ばけばけ』の世界と小泉セツと八雲の時代」がはじまりました。本展は、ドラマを彩ったセツの再現や衣装のほか、モデルとなった小泉セツと八雲が生きた時代を歴史資料とともに紹介しています。

3月29日（日）まで開催。ぜひご来場ください！

主催：松江歴史館

詳細は
こちら /



松江
まちかど
ダイアリー



松江市PRキャラクター
おまっちょ

小泉八雲とセツの 面白エピソード その5

～八雲とセツのちょっとしたエピソードをご紹介します～

小泉セツの本名は「節子」？

戸籍上の名前は「セツ」なのですが、せつ子、節、節子などと、本人が時と場合に応じて使い分けていたようです。セツが語り遺した『思ひ出の記』の著者名は「小泉節子」、八雲の親友・西田千太郎は日記に「セツ子氏」と書きました。一方、夫の八雲は「セツ」と呼び、たとえば日本に帰化する前に書いた遺言状では「Settsu」と綴っています。東京・雑司ヶ谷靈園に夫と並んで眠る墓碑には「小泉セツ之墓」と刻まれています。



〈雑司ヶ谷靈園の八雲とセツの墓碑〉

小泉八雲とセツに関する出前講座の申込受付中。詳しくは[こちら▶](#)



市報 松江 目次

- 02 2月11日は出雲そばの日
- 04 松江まちかどダイアリー／小泉八雲とセツの
面白エピソード
- 05 松江市長 上定昭仁の「上を向いていこう」/
まいぶんTIME
- 06 安居楽業／シリーズ松江の文化力×未来
- 07 松江の皆さんこんにちは。／マイレポート
- 08 市役所本庁の新しい駐車場がオープンします
- 10 松江市交通指導員を募集しています
- 11 消防団員募集中!!
- 12 所得の申告をお忘れなく!
- 14 子育て・健康・福祉
- 16 中国横断新幹線(伯備新幹線)ロゴマーク投票／
令和7年度上期松江市公営企業の経営状況
- 17 情報ひろば
- 24 でかけてごしない～イベント情報～
- 26 原子力広報

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。

QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について:QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

松江市長 上定 昭仁の

上を向いていこう



Vol.52

「松江は「出雲そば」
発祥の地です」



】

2月11日が「出雲そばの日」であることをご存じでしょうか。令和4年（2022年）1月、日本記念協会が「そば商組合（松江市・出雲市）からの申請を受けて、2月11日を「出雲そばの日」として登録しました。

「出雲そば」は、その呼称からお隣の出雲市に由来すると思われがちですが、江戸時代初期の寛永15年（1638年）2月11日、そば処・信州を治めていた松平直政公が出雲松江藩への国替えを命じられ、その後の松江城下で「そば切り」が振る舞われたことが史料に残っています。したがって、岩手県の「わんこそば」「長野県の「戸隠（とがくし）そば」と並んで「日本三大そば」の一角を占める「出雲そば」の発祥は、松江ということになるのです。

しかしながら、それが思いのほか知られていない現状を打開し、市民のみなさんにも観光でいらした方々にも浸透を図るべく、令和5年（2023年）に本市独自のブランドそばの販売をスタートしました。その名も「松江松平そば」。地元産そばを使い、そば懐石を基本とする高級感のあるセットメニューが、松平家の正式な家紋が入った八雲塗の椀



〈職員と仕事始めのそばランチ会〉

伝統的な「松江の味」を次世代に引き継ぐべく努めてまいりますので、「出雲そば」「松江松平そば」を応援していただけますと幸いです。
せんか(笑)

2月11日は、おそばを食べてみま

まいぶんTIME

松江市の遺跡や出土品（埋蔵文化財）について紹介します

Vol.27 田和山遺跡周辺の弥生時代の景観

市立病院の隣に今も残る田和山遺跡は、2000年以上前の環濠集落です。現在では付近に高速道路がとおり、大型店舗が建ち並んでいて、弥生時代の景観を想像することが難しくなっています。そこで、田和山遺跡や周辺の遺跡の発掘調査成果を考古学、地質学、古環境学から検討して、弥生時代の景観を復元しました。春には、AR（拡張現実）というデジタル技術によりその成果を山頂で体感できるようになります。皆さん、お楽しみに！



〈現在の田和山遺跡周辺の景観〉

どんな風景が
広がって
いたのかな？





地域おこし協力隊の

木を楽しむ！松江暮らし

安居 楽業

のどかに暮らし、仕事を楽しむ



(市HP(地域おこし協力隊))

vol.8



伊藤 佐恵子

はじめまして、協力隊になつて1年目の伊藤です！「木工」をキーワードに活動をしています。私は松江市出身です。大学進学で県外へ出て、卒業後は歯科クリニックで虫歯や歯並びを治す仕事に就き、多忙ながらもやりがいを感じながら働きました。ある時一念発起して岐阜県の木芸術スクールに入學し1年間基礎から木工を学びました。その後は静岡県の木工所へ就職し、家具職人として働いてきました。

「なぜ全く違う仕事に転職したの？」これまでに何度も聞かれた質問です。うまく伝えるのは難しい質問ですが、えてひと言で答えるなら二番大好きなことに人生の時間を費やしたい」と思ったからです。私は小さい頃から木工が大好きでした。「子が好きなことを選び楽しく生きています。親の一番の喜び」と、葛藤もあった私の背中を笑顔で押してくれた両親には、心から感謝しています。

松江にリターンするのを機に、木工の経験を生かして地

域活動をしたいと考え、協力隊になりました。今その取り組みのひとつとしていろいろな木工体験を企画しています。小泉八雲の怪談をテーマにしたイベントでは、木でできたシートを怪談キャラのスタンプで飾りオリジナルカードを作るワークショップを行い、たくさんの方たちで賑わいました。

また先日は市内のイベントの中で、かんなくずを使って花びらを表現して木の花を作る体験を企画し地域の皆さんと楽しみました。同じ工程で作っていても、選ぶかんなくずの色や長さが違うと出来上がる花の雰囲気もそれぞれに違うものになり、自分だけの特別な花ができるのです。市内の建具屋さんから分けていただきかんなくずは光沢があり透けるほど薄く、触ると丁寧な仕事が伝わってきます。普段は捨てられてしまうこの素材も魅力的な資源のひとつ捉えて活用しています。



〈ワークショップの様子〉



〈木の花 体験作品〉

【この記事に関する問い合わせ】定住企業立地推進課 ☎55-5215

くるくると丸まつた形のかんなくずを羊の毛に見立てて木の羊を作ったり、木の花でアロマディフューザーを作れる企画も進行中です。これからも松江でのご縁や出会いを大切に、活動を発展させていきたいと思います。ぜひ皆さんも私と一緒に木に触れる体験を楽しんでみませんか？

シリーズ「松江の文化力×未来」

松江の文化力の次世代を紹介します！

Vol.25



伊藤 けいすけ
主祐

松江市出身。
高校時代から演劇に興味を
持つ。岡山よりリターンし、仕
事をしながら、週末は劇団の
活動に取り組む。



〈島根神在劇団・公演の様子〉

【この記事に関する問い合わせ】文化振興課 ☎55-5517

【島根神在劇団（シンゲキ）】Instagramはこちらから→

オリジナル脚本で島根を発信

私が代表を務める「島根シンゲキ」は、2023年から活動を続けています。現在は、松江在住者を中心にお客様が演劇を経験して、島根県内にはいくつかの劇団がありますが、若い世代がより気軽に演劇に触れ、挑戦できる場所が欲しいという声が多くあり、そういう想いに応える形で新しい環境を立ち上げました。

私たちの活動は、主に年2回、県民会館や市民活動センターで行う公演と、その前に約3カ月間続く稽古を中心であります。自前の劇場がないため、普段は公民館を借りて、稽古に励んでいます。公演ではすべてオリジナル脚本を使用し、コメディやミュージカルなどの幅広い表現方法を用いています。世界観をゼロから伸びて作り上げていく過程はシンゲキならではの醍醐味です。また、公演ごとに一般公募やゲスト出演者を迎え、大学生から60代までの幅広い世代が、一つの作品に向かう舞台はエネルギーに満ち溢れた大き

「演劇」と一言で言っても、それに関わる人の役割はさまざまです。演者として舞台に立ちたい人もいれば、裏方として作品づくりを支えたい人もいます。私自身は、役者だけでなく、劇団の脚本・演出も任されており、舞台の表と裏に立つ全員の持ち味を引き出しながら、お客様を惹き付ける内容に仕上げていくことに悩みつつも楽しさを感じています。

今後は、島根にある素材や風景、人々の想いを脚本に織り込み、地域に根ざす作品を生み出していきたいと考えています。いつか「島根に行ったらシンゲキがあるよね」と言っていただける劇団をめざしています。これからも活動を続けていきます。

な見どころとなっています。

【この記事に関する問い合わせ】文化振興課 ☎55-5517

【島根神在劇団（シンゲキ）】Instagramはこちらから→

